

城山動物園 祝 60周年！

上田西高校学びプロジェクト

U N M P

取材日

2021年

10月2日～3日

編集者

上田西高校

班員

1年6組 小笠原 彩羽
1年6組 小林 翔
1年6組 酒井 瑛菜
2年5組 岡本 響
2年6組 飯島 優華
2年6組 増田 若菜

長年愛され続ける理由とは

コロナ禍での工夫・対策

園長の北澤さんは、動物の見所について、餌を食べる時間を利用して来園者の特徴、好みを説明していると話してくれた。飼育スタッフから声をかけたり、普段あげていない餌をあげたりなどアクセントを加えることで、動物の色々な動きを来園者に楽しんでもらえるよう工夫していると話す。

また、今年は10月9日～10日にNight zooが行われた。モルモットのくす玉割りや子ども1日飼育係などを行いつつSNSで情報発信することで、メディアでの紹介、取り上げにつながっているという。最近ではアイドルグループのNGT48ともコラボし、PR活動を行っている。これらの様々な試みに挑戦することで60年間続けられているのだと気付かされる貴重な機会となった。

城山動物園名物であるニホンザルは、サル山でみられる。サル山は一番古い施設でほとんど形が変わっていない。そんなサル山の中でも、野生のサルと変わらない習性が見られる。例えば、お母さんザルは子供を可愛がるが、餌は決してあげず、子供は自分で餌を取りに行くと冷たい



お母さんザルから片時も離れない子ザル



来園者が楽しめる園内活動や広報活動について語る園長の北澤昌志さん。茶臼山動物園でも副園長を務めていた

対応だと思うが、ニホンザルの社会では当たり前のルールらしい。一皿100円で餌あげ体験もできるが、現在はコロナ禍で中止となっている。もう一つの名物であるアシカのプールは正門前で見られる。毎日「アシカのお食事タイム」では、アシカの餌を食べる様子が見られるだけでなく、トレーニングを通



アシカ「シュン君」のトレーニングの様子。体を触ることで健康チェックも兼ねている

して、そのパフォーマンスを至近距離で見ることができる。

希少動物の保護活動



希少動物の（左から）



フンボルトペンギン、アルダブラゾウガメ、シシオザル



城山動物園には現在、シシオザル、アルダブラゾウガメ、フンボルトペンギンの3種類の希少動物を飼育している。個体数が少ないため繁殖が難しく、ほとんどの希少動物は人工繁殖を行っている。人工繁殖とは、生物を人間の手で繁殖させることであり、城山動物園でもフンボルトペンギンは、繁殖のため富山県の水族館と交換を行っている（このような繁殖を目的として動物を借りたり交換することをブリーディングローンという）。また、交換の際には動物にストレスがかからないよう非常に気を付けて配送もしている。北澤さんは交換を行う前には、各個体の血統書や様々な書類手続きが必要のため、簡単には交換に至らないと話す。

これからの城山動物園

現在、台風19号やコロナの影響で園内のアシカのプールやサル山などの改修計画が遅れている。今年で60周年を迎え、園内施設の老朽化も含め、より安全に楽しく見ていただけるよう充実させていきたいと園長の北澤さんは話す。